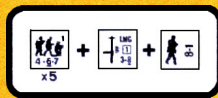


H章

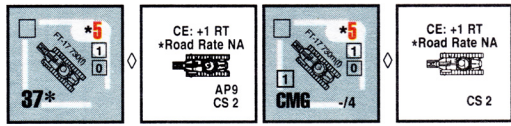
Pegasus Bridge German Vehicles
ペガサス・ブリッジ ドイツ軍車両



H

ペガサス・ブリッジ ドイツ軍車両 Pegasus Bridge German Vehicles

年の迅速なフランス占領により捕獲された車輛や武器が大量に生じた。ドイツ軍はすばやくそれら兵器の最良のものを利用して自軍に装備させて自国の製造工程による空白を埋めた。フランスで、ベッカー少佐は、車両が彼の家業へ提供できる見込みのある遺産である事を察知し、だから、急いでかれの部隊で使用に向けてそれらの車両の改造を始めていた。"Becker's Funnies : ベッカーのファニーズ (特殊車両)" と呼ばれた、これらの車両はたいていロレーヌ・シュレッパヤオチキスの車体を元にしていた。さまざまな改造がこれらの車体を対戦車自走砲、歩兵輸送車、回収車輛、そして、自走砲車輛に用途を転じた。



100.FT-17 730(f) & FT-17 730m(f) : 沢山の旧式フランス製戦車、主にFT-

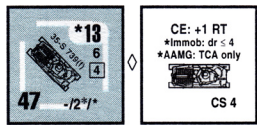
17、及びFT-18が、1940年に捕獲されていた。載せていた砲塔の多くが取外されて大西洋の壁を構築するのに利用されていた；これ以外では治安部隊、訓練部隊、又は警察業務へ供与されていた。FT-17 730、及びFT-17 730mはドイツ陸軍へと移管されたFT-17、及びFT-18のふたつで示されている。それらは、大半に、車両へ無線機を追加する改造がなされていた。

↑最小の道路MPコストは1MPである；すなわち、CE状態であっても、FT-17 730は1/2MP道路MPコストを使用してはいけない。— それに関連して、カウンターに "Road Rate NA(道路レート適用外)" と表されている。

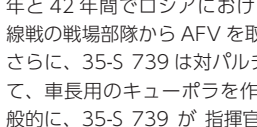


101. 38H 735(f) : とても多量に捕獲されたフランス製戦車の中のひとつ、オチキスのバリエーションはドイツ軍AFVの改造シリーズ全体を自走砲、駆逐戦車、そして、回収車輛を含み大量に生みだしていた。多数が軍へ徴集された、とは

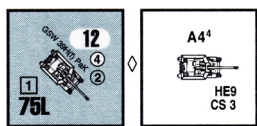
いえ、第2戦線の戦場で戦闘戦車として徴集されていた。ドイツ軍で使用されたオチキス改造すべてが車長用キューボラを両開きハッチと取替えられ、しかも、すべてに無線機を装備した。大部分が再編している部隊へ支給された。初めて使用されたのは1941年フィンランドであった。10の独立小隊がバルカン諸国に派遣されパルチザンと戦った。一般的に、戦車4両が小隊に割振られ、共に、小隊指揮官に捕獲したフランス軍のS-35を支給した。1944年12月末時点で、ドイツ陸軍はまだ稼働中の38H 735を29両を所有していた。



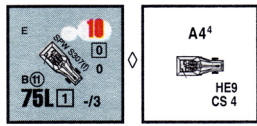
102. 35-S 739(f) : 一人用の砲塔にもかかわらず、ソミュア S-35は1940年でドイツ軍にたいし最良の戦車だと思われていた。数百両のS-35を捕獲している際に、ドイツ陸軍はさまざまな訓練部隊へS-35をすばやく支給していた。1941年と42年間でロシアにおける戦車ものすごい損失により、ドイツ軍は第2線戦の戦場部隊からAFVを取り上げ、35-S 739と入れ替えるを得なかった。さらに、35-S 739は対パルチザンにも使われた。ドイツ軍はソミュアを改造して、車長用のキューボラを作り替え、しかも、各車両に無線機を追加した。一般的に、35-S 739が指揮官車両として38H 735 4両と35-S 739 1両から成る小隊で使用された。1944年の12月末時点で、ドイツ陸軍はまだ稼働中の38S 739を12輛を所有していた。



103.GSW 39H(f) Pak : この車輛はマードーIと類似しているが(マードーIはローレル・シュレッパの車体をベースにしている)、でもフランスのオチキスH29 AFVより改造した車体である。改造は特別な意味があった、オリジナルのオチキス戦車の前面装甲と車体パンだけを残していた。数輛の車両はH35の車体をベースとした。優れたPak 40/L46で武装し、この自走砲は待ち伏せ専用の特攻車両だった、しかし連合軍のAFVとの対決に装甲が不足していた。24両の車両が1942年に改装され、まだノルマンディー侵攻間にフランスで稼働していた。

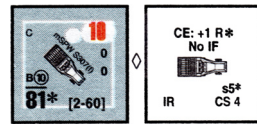


104.SPW S370(f) : ドイツ陸軍は砲の牽引車両として捕獲したソミュアMCGを利用を続けていた、でも、戦場の僻地の戦域でAFV数を増やそうとして、かなりのそれらの車両が改装された多目的任務を務めた。あるソミュアMCG発展型はパンツァーアイエーガー(Panzerjäger)への改装だった。ハーフトラックの荷台に7.5cm Pak40を据え付け、雑な対戦車自走砲が作られた。運転手に関する改装は



Pakの砲盾の前に座らせた、そしてPakはハーフトラックの郷部に据え付けていた。この改装は、やっかいではあるけれども、ちゃんとした山野を横断する機動性を与え、しかも、操作班への防護について限定された装甲を与えた。16両の車両が改装され、1944年間にフランスで活動して、車両小隊4つに配属されていた。

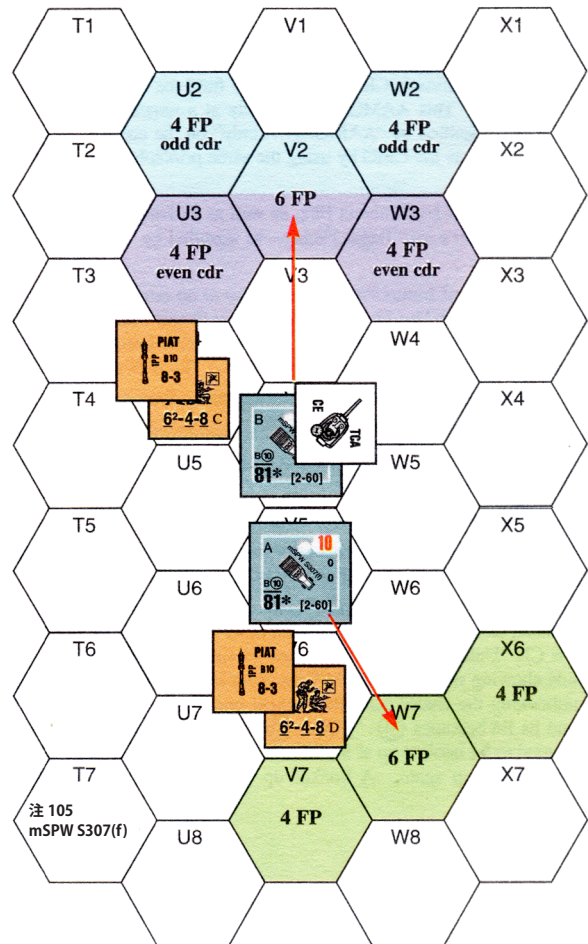
105.mSPW S307(f) : 一番珍しいソミュアの改装は自己推進の多筒迫撃砲ランチャーである。この車両は捕獲したフランス軍81mmプラント迫撃砲を2列の状態にハーフトラックの後部に360°旋回を与える手動クランク式砲塔に搭載していた、16門の砲身はまとめられ、だから、一緒に持ち上げられていた。外部の3本の筒が外側に2、3°回転可能でより広い有効範囲を与えていた。仕組みはその筒内に迫撃砲弾を保持するように工夫されていた、しかも、引き綱を引く事でその爆弾を放った。砲弾は同時に発射されず、そうでなく、むしろ立て続けに発射された、このように、迫撃砲火を再現している。しかし一方、90発の弾薬が車両で運搬され、しかも、再装填の時間がむしろ重要だった。



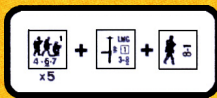
その攻撃の分散する特性のため、命中は目標ヘクスに(通常の8FPの代わりに)6FPで解決されている。さらに、攻撃目標ヘクスのそば、LOFと直角をなした(頂点方向)ヘクス列の隣接する2ヘクス(派生ヘクスと呼ぶ)が同じDRで攻撃されている、でも、たったの4FPで、敵ユニットがその目標ヘクスにいる場合に限られる。LOFが目標ヘクスへ直接ヘクスの足に沿って入る場合、その時LOFと直角をなした2つの隣接ヘクスが派生ヘクスになる。そうでなければ、2つの派生ヘクスは無作為で選択される。TH DRの修整前色付drが偶数の場合、派生ヘクスは2ヘクスで目標ヘクスとLOFが目標ヘクスに進入する直前のヘクスの両方に隣接している。色付drが奇数の場合、派生ヘクスは2ヘクスで目標ヘクスとLOFが目標ヘクスを出て行く直後のヘクスの両方に隣接している。致命的命中(CH)を被るヘクスはランダムに選択されて16FPで攻撃される。

例：ハーフトラックAは目標ヘクスW7を6FPで、及び派生ヘクスX6とV7を4FPで攻撃する。ハーフトラックBは目標ヘクスV2を6FPで攻撃する。派生ヘクスは4FPで攻撃され無作為で選択される：TH DRの修整前色付きdrが

例：ハーフトラックAは目標ヘクスW7を6FPで、及び派生ヘクスX6とV7を4FPで攻撃する。ハーフトラックBは目標ヘクスV2を6FPで攻撃する。派生ヘクスは4FPで攻撃され無作為で選択される：TH DRの修整前色付きdrが



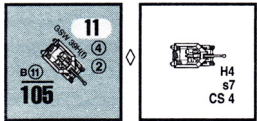
例：ハーフトラックAは目標ヘクスW7を6FPで、及び派生ヘクスX6とV7を4FPで攻撃する。ハーフトラックBは目標ヘクスV2を6FPで攻撃する。派生ヘクスは4FPで攻撃され無作為で選択される：TH DRの修整前色付きdrが



偶数だったなら、ヘックス U3 と W3 が攻撃される;色付き dr が奇数なら、ヘックス U2 と W2 が攻撃される。どちらか一方のハーフトラックの露出した操作班が、分隊 C の固有 FP で攻撃されて +1CE DRM を受ける。なぜなら、攻撃は後方 VCA から出ているからだ。同様に、PIAT が分隊 C によりいずれかのハーフトラックに対して命中すると +1 事例 A が受けられ、後面命中のためその基本 TK# に加えられる、たとえハーフトラック B が砲塔命中であったとしても。すべての攻撃が、分隊 D によりいずれのハーフトラックに対しても通常の +2CE DRM を受ける、しかも、PIAT 命中の基本 TK # は分隊 D によるとハーフトラック B の砲塔命中に対して事例 A による追加がない。

↑この車両は後方に開口していた、でも、迫撃砲それ自体はちょっとだけ防護が施されていた。さらに、砲塔が迫撃砲の 360 度旋回を現わしている、だから、たんに迫撃砲用の砲架が回転しているだけ、するとその時に、砲塔が旋回する。CE DRM は間接射撃に対しても、後方 VCA の範囲内から発した直接射撃に対しても +1 である。命中のすべてが VCA 方向を用いる、TCA がどちらを向いているかは関係ない。直接射撃命中すべてが後方 VCA の範囲内から発したら(そして、そうした命中だけが) 後面目標の向き TK DRM に該当する。

↑最大効果の煙幕が目標ヘックスに展開された時、さらに、漂流煙幕が派生ヘックスにも展開される。煙幕発射時に、目標ヘックスに確認済み敵ユニットがいなくてさらに派生ヘックスのいずれかに未確認の敵ユニット(車両)があるならばケース K が該当する。



106.GSW 39H(f):この車両は (ローレル・シュレッパーの車体をベースしている) PzA LrS に似ている、でも、オチキス H39 から改造した車体である。この自走砲車両は 10.5cm leFH18 砲や旧型の 10.5cm leFH16 砲の内どちらかで武装し

ていた。ゲームでは、これらは同一とした。これらの転用の 48 輦が生産され、1944 年の時点でまだ稼働していた。

ドイツ軍多用途車両の特記 German Multi-Applicable Vehicle Note

a. この車両が ESB (過度の速度による故障) についてフランスの修整を使用する、そういう訳で、車両名の後に続けて "(f)" を用いる。

b. CMG は 2FP の AAMG として再配置可能。これは唯一 AA カウンターを (Mph でなく) 自軍射撃フェイズ終了時に乗せる事で完了できる、そしてそれは、固有の操作班が CE で、しかも、その MG を (故障していたとしても) 射撃する MG を所有しているが射撃していない場合にできる。この AAMG は AFV の TCA の範囲内に位置する目標のみ射撃してよい — その時カウンターの "AAMG : TCA only" で示されている。AAMG は CMG として再配置可能である同じ手順を用いて AA カウンターを取除く。

c. CE DRM は間接射撃に対し +1 である、砲塔の後方の目標の向きの範囲内から発した直接射撃も +1 である — その時カウンターの "CE: +1RT" で示されている。

d. 攻撃の結果で生じるあらゆるタイプの走行不能は [例外: 地雷原で起きる事、又は前方や後方の目標の向きに対する直接射撃命中で起こる事] この AFV に対して効果が生ずる前に、後に続いて dr が行われなければならない。この dr が 4 以下の場合、走行不能が起こる: 5 以上の場合、起こらない。これは "Immob: dr ≤ 4" でカウンターに示されている。

e. この車両はフランス、ノルマンディーで使用するためだけ入手できる。

f. この車両から徴発した MG ヘドイツ軍色のフランス製 LMG を使用する。

A. MA、及び CMG が (その通り装備している場合) AA の特性がある — "MA:AA" がカウンターに印刷されている。

B. オプションの AA MG は H1.3 希少度値 (RF) により 1944-1945 で入手できる。

C. 0.1 を RF から引く、その RF は車両の初年度の入手可能と記載してから毎年の、最後に記載された RF に達するまで間の RF である。

D. この車両は弾薬トレーラーを牽引していると想定している、それは持ち主の告知により、弾薬トレーラーの切り離しが自身の Mph の開始時に、機動中ではなく、操作班が CE である場合に可能である。切り離し事はカウンターをトレーラーでない面にただひっくり返すだけで果たされる。結果として、その追加 MP は増える (もっとも、トレーラーを切り離す行動は車両へ新たな追加 ¼MP を使う事になるのだが)、しかも、B# が ⑪になる。[例外: Sdkfz 10/4 について⑩]。トレーラーは常にシナリオ開始時、連結されていると想定される、それでいて、切り離されたトレーラーは再度連結できない。連結されたトレーラーはそれ以外を C10.1-11 通りに扱われる。

#	Name & Type	WG/T	BPV	RF	Dates	Size	AF	TA	OT	CS	MP	GP	GT	MA	ROF	B#	IF	BMG	CMG	AAMG	Am	#	SD	Notes	
2	FT-17 730m(f)Tt	7	18	1.6	41-44	+1	1/0	+FSR		2	5+	L	1MT	CMG	1				4						100t.a.c.f
4	FT-17 730(f)Tt	7	18	1.6	41-44	+1	1/0	+FSR		2	5+	L	1MT	T37*							AP9				100t.a.c.f
6	38H 735(f)LT	12	29	1.4	41-44	+1	4	+FSR		3	12		1MT	T37					2+	+	AP10				101.a.b.t.c.f
2	35-5 739(f) MT	19.5	35	1.6	41-44	0	6/4	+SR		4	13+		1MT	T47					2+	+					102.a.b.t.c.f††
6	GSW 39H(f) Pak TD	12.5	51	1.6	6-8/44	+1	4/2	-FSR	●	3	12		NT	B75L	1						HE9,A4†				103.a.e
6	SPW S307(f) TD	8.5	42	1.6	6-8/44	0	0	+F	●	4	10		NT	B75L	1				3		HE9,A4†				104.a.e
4	mSPW S307(f) SPA	8.5	50	1.6	6-8/44	0	0		●	4	10		ST	T81*		10	●				IR	5			105.a.e
4	GSW 39H(f) SPA	12.5	54	1.5	6-8/44	0	4/2	-FSR	●	4	11		NT	B105		11					H4	7			106.a.e